

令和8年度 学校自己評価システムシート（県立松伏高等学校）

目指す学校像	一人一人の進路希望や興味・関心に対応するカリキュラムに特色がある学校として、学力の定着・向上、専門的な技術・能力の伸長を促す学習活動等を実施し、幅広い社会性を兼ね備え、地域に信頼され貢献する人材を育成します
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程や教科の自己評価シート及び授業の工夫・改善を進め、学ぶ意欲と学力を向上させる。 2 キャリア教育を進め、高い進路意識を育み、一人ひとりが希望する進路を実現する。 3 生徒会活動や学校行事、部活動を通して様々な体験・経験を積み、主体性、社会性を育成する。 4 学校生活の中で帰属意識を育み規律を身に付けさせ、地域に信頼され貢献する人材を育成する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	6名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標				年 度 評 価 （ 1 月 2 2 日 現 在 ）			実 施 日 令 和 8 年 1 月 2 7 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○成績優良者も多くいる一方で、進路実現に向けて一層の基礎学力の定着、学力向上を図る必要がある。 ・学力向上、授業改善を進めるにあたって、各教科の自己評価シートで育成すべき「進学力」を明確にし、共通理解の上で授業実践を行う必要がある。 ・総合的な探究の時間を中心に主体的な学習態度、アウトプット力を育成する必要がある。 ・生徒の学習環境の整備を引き続き進める必要がある。 	学力向上・「 進学力 」の育成 主体的な学習態度の育成 学習環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> ①学力向上を図る補習を充実させる。 ②各教科で育成すべき「進学力」、育成したい力を各教科の自己評価シートに記載する。 ③各教師は、育成すべき「進学力」、育成したい力を育成するための具体的方策を個人の自己評価シートに記載する。 ④総合的な探究の時間を活用し、調べ学習、課題発見・解決能力を指導・育成する。 ⑤図書館利用の充実を一層進める。 ⑥ICTの活用推進、自習室の継続設置及び効果的な活用。 	<ol style="list-style-type: none"> ①補習開講数及び参加状況。 ②各教科で「進学力」を含意した育成したい力を明確にできたか。 ③教科の自己評価シートに各教員の自己評価シートを連鎖してきたか。 ④課題発見・解決能力等を育成する計画の立案、実践はできたか。 ⑤図書館の利用者数、利用内容。 ⑥ICT活用、自習室の効果的な活用はできたか。 				
2	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の伝統である就職指導の強さを残しつつ、大学進学希望者増加に対応して、生徒の「進学力」の育成を図る必要がある。 ・大学入学及び入学後の学びを見据えた個別最適な学びの取組が必要である。 ・進路実現に向けたきめ細かい面接・志望理由書の指導に加え、進学では年内入試に特化した小論文指導が必要である。 ○将来のビジネスシーンを見据えた資格取得指導を引き続き進める必要がある。 	進学・就職希望に応じた指導の充実 各種検定や高度な資格取得の更なる推進	<ol style="list-style-type: none"> ①学校幹旋の就職内定率 14年連続 100%の実績を活かしてキャリア教育を進める。 ②進学補習の計画・実施、スタディサプリーの計画的・積極的な活用。 ③進学指導での小論文指導を志望学科、出題傾向別に各教科の協力の下で行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①就職希望者に適した職を紹介し内定率 100%を達成できたか。 ②進学補習の実施状況、スタディサプリーの活用状況。 ③組織的に小論文指導はできたか。 				
3	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会活動、各種行事は充実している。引き続き生徒の主体性な活動を育成する。 ○松伏分校と協働で行う生徒会行事等を多く設けている。今後も松伏分校と協働で行事を行い円滑に進める。 ○部活動に積極的な生徒が減少傾向にあり、部活動の活性化を図る必要がある。 	生徒会を中心とした生徒の主体的活動の育成 部活動の活性化	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会や委員会等の生徒を中心に、主体性を大切にしながら学校行事を作りあげる。 ②生徒会を中心に、分校との交流を密にする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒会本部役員を中心に主体的に行事を計画、実施できたか。 ②分校との交流機会を遺漏なく行えたか。 				
4	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒は落ち着いて学校生活を送っているが、在学中に様々なルールや礼節・マナーを学ぶ必要がある。 ・交通安全、交通マナーを守る意識を高める指導、ヘルメット着用を自分事として捉える指導を進めていく必要がある。 ・生徒のコミュニケーション能力の不足による躓きがないように、想像力を育み他者を思いやる心を育む。 ○地域と長年にわたる連携により、地域に必要とされる学校となった。 ・今後も地域に必要とされ信頼される学校づくりを進め、音楽の依頼演奏をはじめ本校の教育活動の魅力を発信していく。 ・学校の魅力発信のために広報活動に引き続き力を入れていく必要がある。 	規範意識の育成と安全教育の推進 地域貢献と情報発信	<ol style="list-style-type: none"> ①松伏 Eight Policy の実践の中で、特に「礼節・マナー」に留意する。 ②交通安全教室の実施形態の工夫、ヘルメット着用の推進、PTAと連携した交通安全指導を実施する。 ③松伏 Eight Policy の実践の中で、特に「思いやる力」の育成に留意し、問題の早期発見を心掛け、学校生活アンケートを毎学期実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①松伏 Eight Policy のアンケートで礼節・マナーは育成できたか。 ②交通事故件数が減少したか。ヘルメットの着用の様子は増えたか。 ③アンケートの実施から、早期発見、予防、問題解決は図れたか。 				
			<ol style="list-style-type: none"> ①松伏町を中心に連携と図り、本校の魅力を発信する。 ②HPやインスタグラムでの情報発信を積極的に行い、保護者や中学生、地域の方々に情報を発信する。 ③広報委員会を中心に学校説明会等の一層の工夫・充実、「(広報)松伏ブランド」の活用。 	<ol style="list-style-type: none"> ①松伏町を中心に連携と図り、本校の魅力を発信できたか。 ②HPの更新回数や、更新内容を充実できたか。また、本校の魅力を広く伝えることができたか。 ③学校説明会等で工夫は見られたか。「(広報)松伏ブランド」の活用はできたか。 				